



# 人権啓発コーナー

人権が尊重され、生きがいを感じられるあたたかい町

氷川町民憲章の第一項目に「人が尊重され、生きがいを感じられるあたたかい町」がうたわれています。

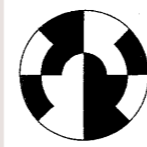
新年度がスタートし、新しいことへの適応と挑戦の連続とされています。ここで一息。豊かな人権の町づくりを進めるには、私たち一人一人の心が豊かになり、生きがいを持つことが必要と思います。自分の人権を大切にしながらも、相手の人権も大切にしましょう。

## 子ども人権教室

「ココロ屋」という人権学習に関するDVDを視聴しました。友だちとうまくいかず悩んでいると、心を様々に変身させることができ、研究者が現れ、心を入れ替えてくれます。しかし、満足いかず、最後には元の心に戻るといってお話で、子どもたちも真剣な眼差しで

視聴していました。人権の大切さ

について考えるとき、心の持ち方で人の心を傷つけたり、豊かにしたりします。周りの友だちと交流しながら豊かな心を育みましょう。また、図のように白黒なのに回すとカラーになるペンハムゴマも作りました。実際に回すと薄いオレンジ色に見えてきて、とても不思議なコマでした。その後のチャレンジ大会では、9種類のゲームにも挑戦しました。子どもたちからも、最初に思っていた以上に楽しかったと感想が聞かれました。



▲不思議なペンハムゴマ

問 生涯学習課  
0965・52・5860



## 地域おこし協力隊

## 活動レポート ③

4/11 れんこんキーホルダーを新1年生に！  
竜北西部小学校の入学式の後に贈呈式を行いました。氷川町産の規格外のれんこんを使い、目立つ黄色に染めてキーホルダーにしたものです。交通事故防止の願いを込めて、一つ一つ手作りました。当日はNHKの取材もしていただきました。



Instagram ▶



4/22 料理教室を開催しました！  
トマトケチャップ・皮パリパリチキンソテー・やみつき玉ねぎ・いちごと不知火のカップケーキを作りました。氷川町の旬の素材を使い、おいしくできました。



### 来月の料理教室のお知らせ

「ウバティと晩白柚のゼリー・黒糖ピーナッツ」

日時 6月17日④ ①10時～②13時30分～  
場所 氷川町文化センター 調理室  
参加費 500円  
持参物 エプロン・三角巾・タオル・保冷バッグ・水筒  
申込 地域おこし協力隊 蜂須（農業振興課内）☎0965-52-5854  
締切 6月9日④

## 町民文芸

### 短歌

新任の島よりバナナ買ってきて  
九十過ぎの祖母へ贈りき  
西上宮 村内 一誠  
境内の奥にひそみし風の息  
音なく散りし竹落葉あり  
北野津 井田 道寛  
ひと仕事終えて熱あつコーヒーを  
庭を眺めて飲むも楽しき  
西野津 古崎 スエノ  
木犀の若葉見とどけ枯葉落つ  
今朝のそよ風散らほらら  
西野津 古崎 栄子  
久に逢う友と語れば幼な日に  
川遊びなどせし日の浮かぶ  
吉本 高橋 澄子

### 俳句

盛り上がる若葉の季節となりけり  
猫とみて六月の空見上げをり  
西上宮 村内 一誠  
バラ咲いて昨日も見たり今日も見る  
北野津 井田 道寛  
たんぼぼの雑草の春田に鮮やかし  
西野津 古崎 スエノ  
天草ゆ草餅持ちて友来たる  
西野津 古崎 栄子  
吉本 高橋 澄子



## 八火図書館だより

季節は6月に入り、これから雨の日が多くなります。この時期は室内で過ごす機会も増えますね。6月もたくさんの新刊図書が入荷予定です。まずは1冊手に取って読書してみませんか。

問 八火図書館  
0965・62・3489

### 新着図書紹介

一般書	児童書
答えは市役所3階に 辻堂 ゆめ	ごちゃまぜカメレオン エリック・カール
明日も一日きみを見てる 角田 光代	ちいさいおねえちゃん いとう みく
旅行鞆のガラクタ 伊集院 静	とんかつのぼうけん 塚本 やすし
60歳からの「忘れる力」 鎌田 實	まあたらしい一日 いしい しんじ

### あなたの本を こども図書館に！ 県民参加型こども図書館企画

新しく建設される県の「こども図書館」への本の寄贈を受付けます。寄贈できる本をお持ちの方はぜひご協力ください。

日時 ①6月17日④ ②8月19日④ 10時～16時

場所 八火図書館入口ロビー

収集する本の種類 絵本・児童書（小学生向けまで）

※補修の必要がない本が対象です。事前に本に私物が挟まっていないことをご確認ください。

「こども図書館」は、建築家の安藤忠雄氏が県立図書館隣に建設中の子どものための図書館です。



### 「雪国」VS「山の音」

たどえ六十歳が老人であった時代であったとしても、「夢で菊子を愛したっていいではないか。夢にまで、なにをおそれ、なにをはばかるのだろう。」と思う信吾の若々しい生命に憧れる気持ちは密かに不倫の線を越えようとする。

映画によく有りそうな物語は、二度読んでもごく自然に胸に収まる「山の音」、今までの川端の作品が如何に生活とかけ離れたものであったかを改めて感じさせる。島村や駒子に比べると、信吾や菊子はずっと現実化され、穏和である。非現実の現実の域を脱し、現実の現実、即ち日常生活の中に作品の場を求めようとする方向に変わってきたのだろう。

### 投稿先

〒869-4814  
氷川町島地642番地  
企画財政課宛（5日必着）